

第49回日本神経精神薬理学会  
第29回日本臨床精神神経薬理学会  
合同プログラム

# 会長招待講演

合同

会長招待講演

JSNP/JSCNP 会長招待講演

10月12日(土) 13:40 ~ 14:40 第13会場(501)

座長：宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座  
吉村 玲児 産業医科大学精神医学教室

IL

生物学からみた精神疾患の病理

神庭 重信 九州大学名誉教授／日本うつ病センター理事長／飯田病院顧問

# 合同シンポジウム

JSNP/JSCNP 合同シンポジウム1

10月12日(土) 8:40 ~ 10:20 第3会場(413+414)

不安症・強迫症の診療ガイドライン

Clinical practice guideline for anxiety and obsessive-compulsive disorders

オーガナイザー・座長：井上 猛 東京医科大学精神医学分野  
座長：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

我が国ではこれまで学会が発表する診療ガイドラインはなく、標準的な治療を専門医のみならず患者、家族、一般医に示すことができなかった。しかし、国による承認薬の違い、精神療法の普及の違いもあることから、我が国の実状にあった診療ガイドラインの作成は必要なことである。2018年から日本不安症学会と日本神経精神薬理学会は合同で、不安症、強迫症の薬物療法、精神療法に関する診療ガイドラインを作成している。まず、パニック症、社交不安症、強迫症の3疾患を対象として診療ガイドライン案を2019年3月に発表する予定である。本シンポジウムでは、パニック症、社交不安症、強迫症の診療ガイドライン案を3名のシンポジストが発表する。さらに現在診療ガイドライン作成を計画中の全般不安症の日本における診療ガイドラインについても、国外の診療ガイドラインを参考にして考えてみたい。

## JS1-1 パニック症の診療ガイドライン

塩入 俊樹 岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

## JS1-2 強迫症の治療ガイドライン

松永 寿人 兵庫医科大学精神科神経科学講座

## JS1-3 社交不安症の診療ガイドライン

朝倉 聡 北海道大学保健センター・大学院医学研究院精神医学教室

## JS1-4 全般不安症の診療ガイドライン

大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科

合同

シン  
ポ  
ジ  
ウ  
ム

難治性強迫症に対する治療の最前線とこれから～薬物療法を中心に～

The cutting-edge and future direction of therapeutic intervention for treatment refractory OCD

オーガナイザー・座長：松永 寿人 兵庫医科大学精神科神経科学講座  
 座長：中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

強迫症(obsessive-compulsive disorder; OCD)は、一般人口中の有病率が1-2%とされるなど、少なからず出現する精神疾患である。この治療では、SSRIなどの薬物、そして認知行動療法(CBT)の有効性が確立されているものの、その寛解率は10年で50%程度と十分とはいえない。特にSSRIに対する抵抗性には、初発年齢や罹病期間、強迫症状のタイプやコモビデティといった症候学的・精神病理学的特徴など、様々な要因が関与する。最近では未治療期間が長期化することによる神経可塑的な変化が注目され、OCDが長期化・習慣化した患者への対応が検討されている。

本シンポジウムでは、OCD難治例の臨床特徴をまずは整理し、薬物療法を中心に、neuromodulationやCBTなどの応用について、治療的介入の最前線やこれからについて紹介し、議論を深めたいと考えている。各演者は、OCDの臨床のみならず、脳内メカニズムにも精通したspecialistであり、今日的生物学的理解に基づいた新たな治療戦略の提言も併せて行う予定である。

合同

シン  
ポ  
ジ  
ウ  
ム

JS2-1 強迫症(OCD)の難治性に対する今日的理解～その横断的・縦断的特性を中心に～

松永 寿人 兵庫医科大学精神科神経科学講座

JS2-2 難治性OCDに対する薬物療法～その現在とこれから～

中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

JS2-3 難治性強迫症に対するニューロモデュレーションの現在とこれから  
～薬物療法との関連性を含めて～

中前 貴 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

JS2-4 難治性OCDに対する認知行動療法の現在とこれから～薬物療法との関連～

向井馨一郎 兵庫医科大学精神科神経科学講座

## 精神疾患のバイオタイプの過去・現在・未来への展望

## Biotype of psychiatric disorders: past, present and future perspective

オーガナイザー・座長：橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部  
座長：加藤 忠史 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム

バイオタイプとは、精神疾患の生物学的な分類のことである。従来の診断法にとらわれずに、患者の測定データ等に基づいて分類を行う。よって、従来診断における症状評価による治療効果の判定法とは異なる治療効果判定法が必要となる。近年は、特定の仮説に基づかずに、機械学習等の手法を用いて得られた分類研究が盛んであるが、このバイオタイプが精神疾患の新たな診断そして診断体系まで発展するには、まだ道半ばである。このバイオタイプの考え方は、アメリカのNIHが提唱したRDoCの考え方に近く、従来診断にとどまらず疾患横断的なものになる。しかし、ただ分類するだけでは最終的な治療に結び付かず、分類した後の治療効果判定を精神疾患横断的に行う必要があり、そのためには、共通の治療評価判定指標の開発が必要である。本シンポジウムでは、このバイオタイプ研究を俯瞰し、未来への展望について概説する。

**JS3-1 精神疾患のバイオタイプ概説**

橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部 / 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

**JS3-2 眼球運動による精神疾患のバイオタイプ分類は可能か**

森田健太郎 東京大学大学院医学部附属病院リハビリテーション部

**JS3-3 認知機能障害による精神疾患のバイオタイプ分類は可能か**

住吉 チカ 福島大学人間発達文化学類人間発達専攻

**JS3-4 安静時脳機能結合からみたうつ病のバイオタイプ**

岡本 泰昌 広島大学精神神経医科学

# 合同ワークショップ

JSNP/JSCNP 合同ワークショップ

10月12日(土) 8:40 ~ 10:20 第2会場(411+412)

特定臨床法ワークショップ

Workshop focused on Clinical Trials Act

オーガナイザー：古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座  
座長：中込 和幸 国立精神・神経医療研究センター  
下田 和孝 獨協医科大学精神神経医学講座

特定臨床法が2018年4月1日から施行され、今後臨床研究の在り方が大きく変わると予想される。それに伴い、学会の在り方も変わる可能性がある。

煩雑な作業であるため敬遠する動きが多いと聞かすが、具体的にどのような問題があるのかよくわからないことが多い。人を対象とする医学系研究に関する倫理指針による倫理委員会から認定臨床研究審査委員会での承認を受けることとはどういう作業なのか、実際に特定臨床研究を計画実行するには、以前より数倍の事務手続きが必要になるのは本当なのか、また認定臨床研究審査委員会とは何を審査するところなのか、特定臨床法を実施するうえで留意しなければならないことは何なのかよくわからない。そこで今回は、特定臨床法に携わった人たちから生の声を聴く機会を設け、今後の研究に対する道しるべになれば幸いである。

JW-1

臨床研究法下での「被験者保護」の一年

井上 悠輔 東京大学医科学研究所公共政策研究分野

JW-2

単科精神科病院で臨床研究を立ち上げること  
～臨床研究法下での『特定臨床研究』へのハードル～

樽谷精一郎 大阪精神医学研究所新阿武山病院

JW-3

国立精神・神経医療研究センターにおける特定臨床研究の審査や実施の状況

清水 玲子 国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター

JW-4

当院での臨床治験・研究への取り組みと臨床治験法施行後の課題

渡部 芳徳 医療法人社団慈泉会市ヶ谷ひもろぎクリニック / 医療法人社団慈泉会南湖こころのクリニック / 医療法人社団慈泉会ホヅミひもろぎクリニック

合同

ワ  
ー  
ク  
シ  
ョ  
ウ  
プ  
特  
定  
臨  
床  
法

# 統合失調症薬物治療ガイドライン講習会

統合失調症薬物治療ガイドライン講習会

10月13日(日) 8:40 ~ 16:30 第3会場(413+414)

司会：稲田 健 東京女子医科大学医学部精神医学講座  
橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

日本神経精神薬理学会及び日本臨床精神神経薬理学会では、ガイドラインの普及・教育・検証活動として、EGUIDEプロジェクトを支援しています。EGUIDEプロジェクトでは、ガイドラインの講習を行い、精神科医の処方行動の変化を検討する研究を行っています。本講習は、講義とグループディスカッションからなるもので受講には研究参加が必須となるため、誰でも参加できるものではありませんでした。そこで、研究参加しなくても受講できる講習を本大会にて開催することにいたしました。本講習は、統合失調症薬物治療ガイドラインに記載されている内容の周知だけでなく、記載されていないもの大切な問題についても紹介し、参加者が統合失調症について知識をより深めるものになることを目的としています。精神科医はもちろんのこと、コメディカルの医療従事者や基礎研究者や製薬企業の関係者など興味ある方は、広く受講していただきたいと考えております。

## 講義内容：

SG1 序文	稲田 健	東京女子医科大学医学部精神医学講座
SG2 初発精神病性障害	松井 佑樹	医療法人明心会仁大病院
SG3 再発・再燃時	堀 輝	産業医科大学医学部精神医学教室
SG4 維持期治療	山田 恒	兵庫医科大学精神科神経科学講座
SG5 治療抵抗性	橋本 亮太	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 精神疾患病態研究部
SG6 その他の臨床的諸問題	橋本 直樹	北海道大学大学院医学研究院精神医学教室

## 症例グループディスカッションファシリテーター：

市橋 香代	東京大学医学部精神神経科学
山田 浩樹	昭和大学医学部精神医学講座
水野謙太郎	社会医療法人如月会若草病院
越智紳一郎	愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学
阿竹 聖和	産業医科大学医学部精神医学教室
福本健太郎	岩手医科大学医学部神経精神科学講座

合同

統合失調症薬物治療  
ガイドライン講習会